

特別展 Special Exhibition

# 北宋書画精華

Masterpieces of Northern Song Painting and Calligraphy  
[ほくそうしよがせいにか]



Image: TNM Image Archives



——きつと伝説になる

宋時代(960~1279)は中国書画史におけるひとつの頂点であり、その作品は後世、「古典」とされました。日本でも、南宋時代(1127~1279)の作品が中世以来の唐物愛好の中で賞断されたことはよく知られていますが、その前の北宋時代(960~1127)の文物も同時代にあたる平安後期に早くも将来されています。さらに近代の実業家が、清朝崩壊にともない流出した作品をアジアにとどめるべく蒐集に努めたため、より多くの重要作が伝わることになりました。

そのひとつ、北宋を代表する画家・李公麟(1049?~1106)の幻の真作「五馬図巻」(現・東京国立博物館蔵)が2018年、約80年ぶりに再び姿を現しました。これまでモノクロの印刷物のみで知られていたその表現は、意外にも色彩豊かで、「白描画の名手」という李公麟のイメージを超えるものでした。

本展は、この「五馬図巻」の再出現を好機として開催するものです。日本に伝存する北宋時代の書画の優品を一堂に集めるとともに、アメリカ・ニューヨークのメトロポリタン美術館から、李公麟の白描画の基準作といえる「孝経図巻」が特別出品されます。

北宋の書画芸術の真髄に迫る日本で初めての展覧会は、きつと伝説になるはずです。

上段：重要美術品・五馬図巻(部分) 李公麟 中国・北宋時代 11世紀 東京国立博物館蔵  
下段：孝経図巻(部分) 李公麟 中国・北宋時代 元豐8年(1085)頃 アメリカ・メトロポリタン美術館蔵

2023年 11月3日(金・祝)~12月3日(日)

日時指定予約制

根津美術館 NEZU MUSEUM <https://www.nezu-muse.or.jp>

根津美術館  
NEZUMUSEUM



二点の李公麟、奇跡の邂逅

※会期中展示替えがあります。 前期【11/3(金・祝)～11/19(日)】、後期【11/21(火)～12/3(日)】



Image: TNM Image Archives

**重要美術品**  
 五馬図巻(部分) 李公麟  
 中国・北宋時代 11世紀  
 東京国立博物館蔵

西域諸国から北宋に献じられた5頭の名馬を描いた作品。歴代の中国皇帝が「神品」として高く評価した。細線を引き重ね、かつ繊細な彩色を施した表現は、「白描画の名手」李公麟のイメージを覆すものであり、北宋絵画史の書き換えをも迫るインパクトを有する。



孝経図巻(部分) 李公麟  
 中国・北宋時代 元豊8年(1085)頃  
 アメリカ・メトロポリタン美術館蔵

中国の儒学で聖典とされる十三経のうちのひとつである「孝経」の内容を章ごとに絵に描き、本文を書いたもの。古拙な墨線を主としながら、山水や樹石には墨の濃淡や点描風の描写も認められ、水墨山水画が大成された北宋時代にふさわしい清新な白描画風を示す。

《李公麟とは》  
 李公麟(1049?～1106)は、北宋時代を代表する画家の1人。舒城(現在の安徽省六安市)の富豪の家に生まれる。熙寧3年(1070)に科挙に合格し、官僚として活躍した後、元符3年(1100)退隠。幼い頃から書や絵画の名品に親しみ、自らも収集に努めるとともに、それらの模写と研究を通じて書画の才覚を磨いた。とくに唐の呉道玄や六朝の顧愷之に学んで伝統的な線描を身につける一方、書法や古文字にも精通して、線のみで対象を描く白描画に独自のスタイルを確立した。なかでも画馬に優れたと伝え、また蘇軾や黄庭堅など同時代の文人に高く評価された。

関西の事業家が蒐集した山水画の傑作



**重要文化財**  
 寒林重汀図(伝)董源  
 原本：中国・五代 10世紀  
 兵庫・黒川古文化研究所蔵

唐時代は人物画が発展したのに対し、続く五代～宋時代は山水画や花鳥画が高みに達した。本作は、水墨の表現性により、夕陽が差して陰影をつくる前景から、徐々にかすんで夕闇に消える後景まで、江南の水郷風景を見事に描き出す。董源は五代・南唐の宮廷画家。

喬松平遠図 李成(款)  
 原本：中国・五代～北宋時代 10世紀  
 三重・澄懷堂美術館蔵  
 ※前期【11/3(金・祝)～11/19(日)】のみ展示



前方左に2株の松を大きく表し、背後に荒涼とした平原を描く。精緻な淡墨技法を駆使して、空間の深まりが劇的に表現される。雲のような岩山や蟹の爪のような枝をもつ樹木など、北宋の山水画の中心的な様式となる李成の画風をもっともよく伝える作品。



江山樓觀図巻 燕文貴  
 中国・北宋時代 10～11世紀  
 大阪市立美術館蔵

燕文貴は北宋時代前期に活躍した画院画家。その作品は、大観的な山水に人物をはじめ様々なモチーフを細やかに描きこむものであったと伝える。激しい風雨にさらされる風景の細部に目を凝らさせる本作には、その特色がよくうかがわれる。

肖像画の迫真性、極まる



ひつせいちょうぞう すいよう ごろう すいしんかん  
畢世長像（睢陽五老図巻断簡）  
中国・北宋時代 至和3年（1056）以前  
アメリカ・メトロポリタン美術館蔵

いずれも北宋時代前期の官僚で、引退後に文雅の交わりをもった5人を描く画卷を切断したものの1図。李公麟「孝経図巻」に通じる古典的な人物表現を基礎としながら、理想化された類型描写を脱する迫真的な肖像画となっている。

圧倒的な実在感を誇る仏画



国宝  
くじやくみょうおうぞう  
孔雀明王像  
中国・北宋時代 11世紀  
京都・仁和寺蔵  
※後期【11/21（火）～12/3（日）】のみ展示

羽を大きく広げた孔雀の上に坐す、三面六臂の孔雀明王を描いた北宋仏画の名品。太さが微妙に異なる線描を使い分け、かつ繊細なグラデーションをともなう彩色が全身にほどこされて、確かな実在感と立体感を生み出している。

仏像内に収められた至高の版画



国宝  
りょうぜんへんそうず  
霊山变相図（部分）  
中国・北宋時代 10世紀  
京都・清凉寺蔵

釈迦が説法を行う霊鷲山のさまを細密に表した、中国版画史上の傑作。北宋の雍熙2年（985）に造立され、入宋僧の齋然によって将来された清凉寺本尊・釈迦如来立像の像内から発見された納入品のひとつで、北宋初期の仏画遺例として極めて重要。

五馬図に跋文を寄せる黄庭堅の名筆



重要文化財  
ふくはしんししかん  
伏波神祠詩巻（部分） 黄庭堅 1巻  
中国・北宋時代 建中靖国元年（1101）  
東京・永青文庫蔵

※【前期と後期で巻替え】

黄庭堅（1045～1105・号山谷）は北宋を代表する詩人として師の蘇軾と並び称され、また書家としても北宋の四大家の1人に数えられる。唐の劉禹錫の詩を書いてみずから跋文を加えたこの1巻は、晩年における黄庭堅の代表作である。

北宋製の美しい料紙、平安貴族を魅了する



国宝  
こきんわかしゅうじよ かんすぼん  
古今和歌集序（卷子本）（部分）  
日本・平安時代 12世紀  
東京・大倉集古館蔵  
※【前期と後期で巻替え】

雲母摺りや空摺りをほどこした北宋製の装飾紙（唐紙）に書写した『古今和歌集』の豪華本。この仮名序だけが巻物として完存し、断簡は「卷子本古今集切」とよばれる。平安貴族たちは舶載の料紙を用いた美しい歌集を愛し、贈答し合った。

# 展示室1・2・5 特別展 北宋書画精華

## <その他の展示作品から>

・重要文化財 秋山蕭寺図巻 (伝) 許道寧 京都・藤井齊成会有鄰館蔵  
 「北宋山水画の主流となった李成派の作品」

・重要文化財 秋塘図 (伝) 趙令穰 奈良・大和文華館蔵  
 (後期【11/21(火)～12/3(日)】のみ展示)  
 「小景画—小さな景観描写にあふれる诗情」

・国宝 山水図 李唐 京都・高桐院蔵  
 「北宋から南宋へ、過渡期の山水画の様相」

・重要文化財 御製秘蔵詮 京都・南禅寺蔵  
 「北宋の木版画の実像を伝える高麗版」

・国宝 十六羅漢像 (第十四尊者伐那婆斯・第十五尊者阿氏多) 京都・清凉寺蔵  
 「洞窟に住まう聖者たちのリアル」

・重要文化財 内典随函音疏 卷第三百七 京都国立博物館蔵  
 「經典中の難解な字の音や意味を注記する端正な書」

・国宝 印可状 (流れ円悟) 円悟克勤 東京国立博物館蔵  
 「現存最古の禅僧の墨蹟」

・楷書謝賜御書詩表巻 蔡襄 東京・台東区立書道博物館蔵  
 「四代皇帝・仁宗に奉られた宋代楷書の最優品」

・行書三帖巻 米芾 東京国立博物館蔵  
 「行書に優れた北宋四大家の1人、米芾の代表作」

・国宝 倭漢朗詠抄 (太田切) 東京・静嘉堂文庫美術館蔵  
 (前期と後期で巻替え)  
 「北宋の唐紙に日本で金銀泥下絵を加える和漢の競演」

前期【11/3(金・祝)～11/19(日)】、後期【11/21(火)～12/3(日)】

## 同時開催展

### 【展示室6】北宋工芸—館蔵品より—

北宋時代は工芸においても、鋭い造形感覚に基づき、洗練された作品が各地で生産されました。書画の名品のあとは、館蔵の北宋工芸が続きます。



青磁牡丹文水注・承盤  
 中国・北宋時代 11世紀  
 個人蔵(根津美術館寄託)



白地石畳唐草文壺  
 磁州窯系  
 中国・北宋時代 11世紀  
 根津美術館蔵

## 秋の庭園



庭園内の飛梅祠

美術鑑賞のあとは、根津家私邸時代の面影を残す17,000m<sup>2</sup>の日本庭園で散策をお楽しみください。例年11月後半から紅葉が見ごろを迎えます。

※庭園入場には美術館入館料が必要です。

## 関連プログラム

■講演会 (事前申込制)  
 ①『五馬図』のある北宋絵画史  
 日時 11月12日(日) 午後1時30分～3時00分  
 講師 板倉 聖哲氏  
 [本展監修者・東京大学 東洋文化研究所 教授]

②『五馬図』をめぐる五つの物語(仮)  
 日時 11月26日(日) 午後1時30分～3時00分  
 講師 石 守謙氏 [中央研究院(台湾) 特聘研究員]  
 ※講演は中国語。日本語の逐次通訳あり。

会場 ①、②ともに根津美術館講堂

■スライド レクチャー (事前申込制)  
 日時 11月10日(金)、17日(金)、24日(金)  
 各日とも午前11時30分～午後12時15分  
 会場 根津美術館講堂

担当学芸員が展覧会の見どころをスライドを用いて解説いたします。

※最新情報は、当館ホームページをご覧ください。お電話でご確認ください。

## <申し込み方法>

- ・当館ホームページの「イベント情報」の申し込みフォームから、お申込みください。
- ・いずれの講演会、スライドレクチャーの事前申込みも、定員になり次第締め切らせていただきます。
- ・参加は無料ですが、入館料をお支払いください。

## 開催概要

展覧会名	特別展「 <small>ほくそうしよがせい</small> 北宋書画精華」
	<b>日時指定予約制</b> スムーズなご入館と快適なご鑑賞のために、当館ホームページで日時指定入館券をご購入ください。(招待はがき等をお持ちで入館料無料の方もご予約ください。)
主催	根津美術館
監修	板倉聖哲氏(東京大学 東洋文化研究所教授・根津美術館理事)
開催期間	2023年11月3日[金・祝]～12月3日[日]
開館時間	午前10時～午後5時(入館は閉館30分前まで)
休館日	毎週月曜日
入館料	オンライン日時指定予約 一般 1800円(1600円) 学生 1500円(1300円) ・( )内は障害者手帳提示者及び同伴者1名の料金。中学生以下は無料。 ・オンライン日時指定予約の定員に空きがある場合のみ、当日券(一般2000円、学生1700円)を美術館受付で販売いたします。 ・2023年10月27日(金)より当館ホームページで予約を開始する予定です。 ・ご予約は1グループ4名までとさせていただきます。団体でのご来館はお電話(03-34000-2536)でご相談ください。
アクセス	地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線〈表参道〉駅下車A5出口(階段)より徒歩8分、B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3出口(エレベーターまたはエスカレーター)より徒歩10分
住所	〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1
お問合せ	Tel. 03-3400-2536(代表) website <a href="https://www.nezu-muse.or.jp">https://www.nezu-muse.or.jp</a>
広報・取材のお問合せ	学芸部 広報課 所/村岡 Tel. 03-3400-2538(直通) e-mail: <a href="mailto:press@nezu-muse.or.jp">press@nezu-muse.or.jp</a>

当館の広報制作物に関して、郵送からメール配信への切り替えをご希望の方は、どうぞお知らせください。プレスリリースと画像申請書は、当館ウェブサイトの「プレス関係の方へ」からダウンロードも可能です。

## 次回展 企画展「ぬいおり繡と織 ー華麗なる日本染織の世界ー」

2023年12月16日[土]～2024年1月28日[日]

【年末年始休館：12/25(月)～1/4(木)】



古来、人々の営みを彩り続けた染織品。奈良時代の古裂から江戸時代の能装束や小袖まで、当館所蔵の刺繍と織を中心とした作品をご覧ください。

左: さやじつせみめんさんしきよう 紗綾地芒扇面散模様縫箔 日本・江戸時代 18～19世紀

右: みどりそうかもんししゅう 緑地草花文刺繍 日本・奈良時代 8世紀

いずれも根津美術館蔵

\*本資料掲載の内容は、予告なく変更になる場合がございます。最新の情報は当館広報課へお問い合わせください。(2023.8)